

3 事業概要

環境科学センターは、「良好な環境の確保に必要な試験研究・調査・指導等並びに環境保全の啓発及び普及を行う」（神奈川県行政組織規則）ために設置された試験研究機関です。

平成20年度からは、当センターの取り組むべき業務の方向性や取り組む分野、行動目標を示した「環境科学センター業務推進方針」に基づき、多様な活動主体との連携・協働のもと、業務を行っています。

なお、上記「環境科学センター業務推進方針」については、内容を見直し、平成22年8月に改定しました。

○主な業務

1 環境の質の継続的な監視

- ・法令等に基づく立入検査、環境基準等の達成状況の把握、未規制物質の監視・調査
- ・汚染事故等発生時の迅速な環境調査

2 重点的な調査研究の推進

<環境基本計画等に基づく重点課題>

- ・環境中の化学物質の汚染実態解明と環境リスク評価
- ・水源環境の保全に関する研究
- ・地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究

3 環境情報の整備と提供

- ・最新の環境情報の収集・整備、環境施策の評価等のための環境情報の提供
- ・県民ニーズを踏まえた環境情報の提供、積極的なアウトリーチ活動の展開

4 環境保全のために行動する人材の育成

- ・環境学習のための多様なプログラムの提供と情報共有、環境学習施設・設備のオープン利用の推進、県市町村職員の効果的な研修

3.1 環境情報部

環境情報部には、①環境活動推進課、②環境監視情報課を置き、それぞれ次のように業務を推進しました。

3.1.1 環境活動推進課

企画調整業務として、試験研究業務の総合的企画調整、所内プロジェクト研究の企画・進行管理、研修業務及び他機関との連絡調整等を行うとともに、環境学習業務として、地域で環境保全や環境学習活動を実践する市民の育成や支援のために各種の講座を開催しました。また、業務成果の普及・啓発、広報業務として、各種の発表会やホームページでの普及啓発を行うとともに、施設公開や記者発表等を行いました。

(1) 企画調整業務

試験研究業務の推進と運営について、**ア**のとおり外部の委員で構成する研究推進委員会を開催し、重点的な研究課題について評価を実施し、結果を公表しました。

さらに、**イ**のとおり、県及び市町村環境関係業務担当職員を対象とした人材育成に係る研修業務等を実施するとともに、**ウ**のとおり技術相談及び講師派遣・出前講座を行い、**エ**のとおり審議会、委員会等への職員派遣を行いました。

また、所内のプロジェクト研究の企画・進行管理を行うとともに、**オ**のとおりプロジェクト研究として「地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究」の取りまとめを行いました。

ア 試験研究業務の推進と運営

事業名	概要
1 研究推進委員会 (外部評価) H25/2/12	平成3年度設置。水ing株式会社宮晶子人事・法務・内部統制統括法務・審査室長を委員長とする学識経験者6名で構成。当センターが実施する試験研究を効果的に推進するため、客観的かつ公正な外部評価を

	実施し、適正な業務の遂行を図った。 [平成24年度評価対象] 平成25年度にプロジェクト体制で取り組む「環境中の化学物質の汚染実態解明と環境リスク評価」をはじめ、「水源環境保全」、「微小粒子状物質の動態と発生源寄与の解明」の3主要課題の研究計画。
2 研究計画等説明会 H23年度研究結果 :H24/5/9 H25年度研究計画 :H25/1/11、1/15	環境科学センター研究業務実施要綱に基づき、当センターで実施した平成23年度の研究結果及び25年度研究計画についてそれぞれ説明会を開催し、重点課題等について評価を行い、適正な研究業務の遂行を図った。
3 調査研究業務の進行管理等	4. 1のとおり所内の研究プロジェクトの進行管理を行うとともに、地球温暖化対策のための「地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究」の取りまとめ等を行った（内容については、4. 2. 1に結果概要を掲載）。

イ 人材育成の推進

事業名	概要	要
1 研修派遣 環境省環境調査研修所 及び各種学会等の研修	環境問題全般に関する専門的知識と技術を取得するために環境省環境調査研修所や各種学会等が主催する研修等に職員を派遣した。 ①環境省環境調査研修所主催研修 ・機器分析研修（Bコース） （12日間：新井聡史） ・廃棄物分析研修 （10日間：辻祥代） ②学会及びその他の研修 ・学会等セミナーのほか学会の聴講やシンポジウムに適宜参加	
2 大気水質担当職員研修	県及び市町村の大気水質等の行政に携わる職員を対象に研修を実施した。 ①環境保全関係法令研修 H24/5/16, 21, 23の3日間 ②技術研修 H24/10/10, 10/12, 10/16, 10/31の4日間	受講者 延べ123人 受講者 延べ79人
3 廃棄物担当職員研修	県及び廃棄物処理法上の政令4市の廃棄物行政に携わる職員を対象に研修を実施した。 ①廃棄物対策担当職員研修 H24/5/18, 22, 25の3日間	受講者 延べ81人
4 勤務発明に係る特許、 実用新案の出願	「神奈川県職員の勤務発明等に関する規則」に基づき、「環境科学センター勤務発明検討委員会設置要綱」（平成11年6月1日施行）を定めている。 平成24年度末における当センター職員の勤務発明による特許等の保有状況は6. 1のとおり（出願中のものを含む。）。	

ウ 技術相談及び講師派遣等

事業名	概要
1 環境保全に関する 技術相談・技術支援	<p>事業所及び県民、自治体の環境行政担当職員等から33件の技術相談を受け付けた。</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既往の研究成果に対する照会 ・騒音の測定方法及び評価手法の詳細について ・低周波音の評価について ・道路交通振動の測定方法について ・化学物質による影響について ・排水処理及び排水・土壌の分析について ・コモチカワツボについて
2 講師派遣・出前講座等	<p>当センターの調査研究事業の専門性から、事業者団体や大学等からの依頼を受けて、講習会、研修会の講師として職員を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度講師派遣：11件／派遣職員延べ11人 <p>また、児童・生徒の理科離れの解消や地域の環境活動を支援するために、センター職員のアウトリーチ活動の一環として平成19年度から出前講座（授業）を制度化し、積極的な活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度出前講座（授業）：23講座/受講者数1,244人 <p>（参考：平成23年度出前講座（授業）：24講座/受講者数1,874人）</p> <p>なお、講師派遣先及び講座名等は、5. 2のとおり。</p>
3 インターンシップ等の 受け入れ	<p>県における就業体験の機会を通じ、学生の就業意欲の向上及び県行政に対する理解の増進を図るため県が実施しているインターンシップ（学生実習生受け入れ制度）により学生の受け入れを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度受け入れ学生数 2名

エ 審議会、委員会等への派遣

当センターでは市町村の審議会や、国又は市町村等が行政方針の決定や、課題の解決のために設置した委員会等に多くの職員が委員として参画し、様々な分野について、知識や技術的な面での助言等を行っています（平成24年度に参画した審議会、委員会等については5. 3のとおり）。

オ 調査研究業務

研究プロジェクトとして、「地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究」の1課題を実施しました（内容については、4 試験研究・調査の概要の4. 1に課題を、4. 2及び研究報告に結果概要等を記載）。

（2）環境学習業務

環境学習業務は、ア～ウのとおり地域で環境保全や環境学習活動を実践する市民の育成や支援のためにア「環境活動実践講座」、イ「環境学習リーダー養成講座」、ウ「専門講座Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ. Ⅳ. Ⅴ」エのとおり「教員のための環境学習講座」を実施するとともに、オのとおり夏休み期間中の児童を対象に「夏休み子ども環境体験教室」を開催しました。また、カのとおり（NPO）神奈川県環境学習リーダー会等が開催する「市民環境活動報告会」に対する支援を行うとともに、キのとおり「市町村環境

学習担当者研修」を2日間にわたり開催し、クのとおり環境学習室や実習室等の利用者に対する支援を行いました。

ア 環境活動実践講座

[目的] 地域で環境調査活動や環境学習活動を実践する人材を育成するため、身近な環境問題について理解を深め、実践に役立つ知識や技術を学ぶ2コースを開催。

(ア)「環境調査コース」

[内容] 身近な環境の大気、水質、生物などの調査法

[会場] 環境科学センター(1日目午後のみ伊勢原ふれあいの森、4日目葉山町柴崎海岸・真名瀬会館)
[受講者 32人、修了者27人]

開催日	内容	講師
①H24/6/2 (土)	河川とその周辺の環境調査(講義・実習)	水生昆虫談話会・陸水生物研究会世話人 野崎隆夫
②6/9(土)又 は6/10(日)	水生動物同定(実習) 水質分析(実習)	同上 環境科学センター 本多久男
③6/16(土)	大気分析(実習)	環境科学センター 本多久男
④6/23(土)	身近な自然の調べ方(講義と実習) 磯の生き物調査(実習)	東海大学教養学部准教授 藤吉正明 環境科学センター 萩谷盛雄 前しおささい博物館館長 池田 等
⑤6/30(土)	市民が行った環境調査活動の紹介 葛川の水質調査活動(講義) 田んぼの生き物調査(講義) 環境調査計画の立案(実習)	葛川をきれいにする会 藤田尚志 桂川・相模川流域ネットワーク 倉橋満智子 環境科学センター 本多久男

(イ)「地域生態系保全コース」

[内容] 田んぼの生き物調査などを中心として地域生態系保全の基礎と環境保全活動を実践する上での実技や知識習得をめざす。

[会場] 環境科学センター(3日目は現地見学) [受講者 43人、修了者 23人]

開催日	内容	講師
①H25/1/26 (土)	地域生態系保全(講義) 田んぼなど水辺生態系保全(講義)	日本大学生物資源科学部 大澤啓志 環境科学センター 齋藤和久
②2/3(日)	身近な生きものを調べる	おおい自然園 一寸木肇
③2/9(土)	現地見学	座間のホテルを守る会 脇田信雄
④2/16(土)	ワークショップ	(NPO)神奈川県環境学習リーダー会 柳川三郎

イ 環境学習リーダー養成講座

[目的] 身近な環境問題について理解を深め、環境学習プログラムの実施方法を体験的に学ぶことを通して、地域で環境学習活動を実践する県民を育成。

[内容] 座学や環境学習プログラムの体験、ワークショップの手法等を学ぶ。

[会場] 環境科学センター(1日目午後 平塚市八幡山公園、4日目午後 平塚リサイクルプラザ、神奈川県下水道公社四之宮管理センター)

[受講者36人、修了者28人]

開催日	内 容	講 師
①H24/10/6 (土)	環境学習論 (座学)	東海大学特任教授 小澤紀美子
②10/13(土)	ネイチャーゲーム (野外実習)	(社)日本ネイチャーゲーム協会 村田範子
③10/20(土)	アイスブレイク 神奈川の環境 (座学)	環境科学センター 塩谷映雄
④11/2(金)	自然エネルギーの現状とこれから (活動発表)	(NPO)ひらつかエネルギーカフェ 田中良治
⑤11/10(土)	身近な環境調査 (座学・実習)	環境科学センター 萩谷盛雄
⑥11/17(土)	神奈川県での廃棄物とリサイクル 資源再生物処理施設・下水処理場 (施設見学)	県資源循環課 加藤清隆
⑦11/24(土)	大気環境教育の手法 (座学・実習)	平塚市リサイクルプラザ 神奈川県下水道公社四之宮管理センター
	化学物質 (座学)	環境科学センター 小松宏昭・武田麻由子
	市民活動とは (座学)	環境省化学物質アドバイザー 石井員良
	地球温暖化と暮らしの省エネ ワークショップの手法 (実習)	ソーシャルコーディネートかながわ 手塚明美 (NPO)神奈川県環境学習リーダー会 安藤紘史 帝京科学大学教授 小林 毅

ウ 専門講座Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ.Ⅴ

[目 的] 環境保全に必要な環境調査法、分析手法などについて専門的な知識を習得する講座。

[会 場] 環境科学センター

[受講者 57 人]

開催日	内 容	講 師	参加者
H24/7/7(土)	専門講座Ⅰ 「海岸動物の調査と標本作成」	元神奈川県博物館学芸部長 村岡健作	17人
H24/7/21(土)	専門講座Ⅱ 「川の全窒素、全リンをはかる」	環境科学センター 本多久男	11人
H24/9/29(土)	専門講座Ⅲ 「磯に生息しているベントスの調査方法」 「海洋動物の調査方法」	横浜国立大学准教授 西柴二郎 環境科学センター 萩谷盛雄	11人
H24/12/8(土)	専門講座Ⅳ 「MANDARAとGISを学ぶ」	環境科学センター 岡 敬一	11人
H24/12/15 (土)	専門講座Ⅴ 「川の全窒素、全リンをはかる」	環境科学センター 本多久男	7人

エ 教員のための環境学習講座

[目 的] 県内の教員を対象に「総合的な時間」や「理科」などで学習する環境問題について、子どもたちの指導に必要な基礎的知識を学ぶと共に、実際に授業の中で活用できるような環境実験を習得するとともに、施設の紹介や見学を行うこととし2講座を開催した。

[会 場] 環境科学センター

(ア) 教員のための環境学習講座 1

[受講者 23 人]

開催日	内 容	講 師
H24/7/27 (金)	教育に活かす環境保全活動 (講義) 生物多様性研究と現状 水生生物の調査法 (実習)	環境科学センター 海洋研究開発機構 環境科学センター 齋藤和久 白山義久 飯田信行 池田佳世

(イ) 教員のための環境学習講座 2

[受講者14人]

開催日	内 容	講 師
H24/8/3 (金)	エコスクールと環境教育 (講義) 水の簡易分析方法と汚れの浄化 (講義・実習) プラスチックの分別 (講義・実習)	東京都市大学准教授 環境科学センター 環境科学センター 佐藤真久 秀平敦子 辻 祥代

オ 夏休み子ども環境体験教室

[目 的] 環境に関する様々な体験を通して、子どもたちに環境問題について学ぶ機会を提供する。

(NPO) 神奈川県環境学習リーダー会主催 (かながわサイエンスサマー事業)

4日間、午前各1回 全4回 (往復ハガキで申込み)

[会 場] 環境科学センター

[参加者] 小学校4～6年生 延べ74人]

開催日	内 容	参加者
①H24/7/30 (月)	A 身近な空気を調べよう	19人
②H24/8/ 1 (水)	B 色々な発電を体験しよう	24人
③H24/8/ 2 (木)	C ケナフ知ってる?ハガキを作ろう	12人
④H24/8/ 6 (月)	D 水について楽しく学び実験しよう	19人

カ 市民環境活動報告会

[目 的] 県内各地で自主的に環境保全活動を行っているグループによる活動状況や研究成果等の発表の場、また、参加者同士の意見交換を通じて環境保全・改善の輪を広げていく。

[主 催] (NPO)神奈川県環境学習リーダー会、(NPO)かながわ環境カウンセラー協議会、当センター、かながわ地球環境保全推進会議、県環境計画課による実行委員会

[開催日] 平成 25 年 3 月 2 日 (土)

[会 場] かながわ県民センター ホール

[参加者 70 人]

発 表 内 容 (発 表 者)
1 基調講演 「大学と地域の環境活動との連携」～神奈川工科大学の活動を例として～ (神奈川工科大学応用化学科教授 高村岳樹)

2 口頭発表

- ① 「森に行こう！森を知ろう！森と語ろう」～私たちの活動報告～
(全国森林インストラクター 品川高儀)
- ② 「環境まちづくりの実践報告」～行政との協働による取り組みと課題～
(環境市民会議ちがさきエコワーク 青木洋子)
- ③ 「藤沢市せっけん推進協議会の活動報告」
(藤沢市せっけん推進協議会 篠原貴代美)
- ④ 「ヨコハマ3R夢活動を学校給食の牛乳びんリユース実施で具現化しよう」
～ヨコハマの環境活動にびんリユースをPR～
(NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会 齋藤雅彦)

3 テーブルセッション

- テーマ1 自然環境保全
- テーマ2 行政と協働
- テーマ3 3R
- テーマ4 災害

キ 市町村環境学習担当者研修

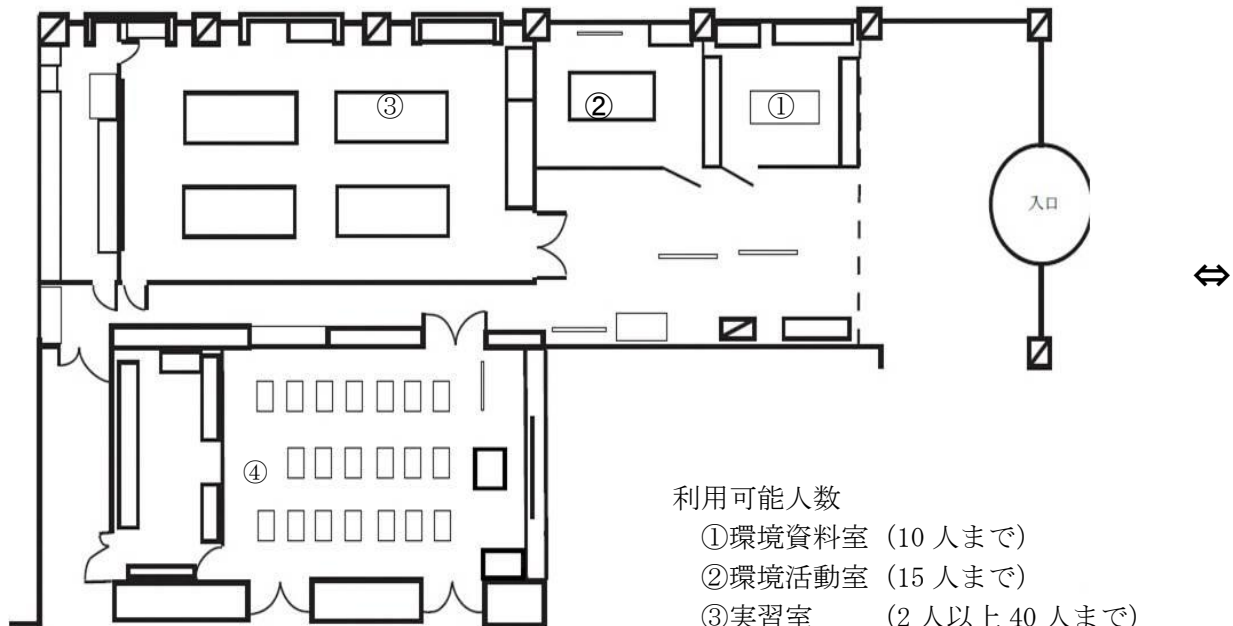
- [目的] 市町村の環境教育の支援として、新任から複数年担当者まで環境教育に関する幅広い知識を習得するとともに、即戦力につながる環境学習の実践手法を学ぶ。
- [内容] 座学、環境イベントの企画に関する実験手法の研修、事前調査をもとに意見交換会の実施。
- [会場] 環境科学センター

[受講者25人]

開催日	内 容	講 師
①H24/5/16 (水)	自治体の環境学習（講義） 県の環境教育の取組みについて（座学）	東海大学特任教授 小澤紀美子 県環境計画課 山崎 博
②5/17(木)	県・市町村 座談会 身近な環境調査（座学・実習） 簡単な環境実験の手法（実習） 所内見学	NPO法人ESD-J理事 吉澤 卓 NPO法人神奈川県環境学習リーダー会 柳川三郎 環境科学センター専門員 萩谷盛雄 環境科学センター職員 本多久男

ク 環境学習施設・その他学習事業

環境学習施設 (環境科学センター 1階)



利用可能人数

- ①環境資料室 (10人まで)
- ②環境活動室 (15人まで)
- ③実習室 (2人以上40人まで)
- ④環境学習室 (2人以上40人まで)

開館時間 月～土曜日の9時～16時30分

(日曜・祝日は2週間前までに予約があれば開館)

*平成25年度より、土曜日のご利用は15日前までに予約が必要になりました。

事業名	概要
1 環境資料室・環境活動室の整備とオープン利用の推進	<p>多様な市民活動への積極的な支援のため、平成19年5月から従来の「活動支援スペース」に間仕切りをして、①環境関係資料の閲覧やビデオの視聴、インターネット検索ができる「環境資料室」と、②パソコン、作業台などを設置して環境保全活動の打合せなどに県民がいつでも自由に利用できる「環境活動室」として整備し、環境保全グループや一般県民等に貸し出した。</p> <p>平成24年度の利用数は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境資料室：37件(延べ184人) 環境活動室：53件(延べ282人)
2 実習室の利用者への支援	<p>環境保全活動の科学的支援の場として、簡易な実験が行える「実習室」の貸し出し及び利用者に対する技術支援を行った。</p> <p>利用内容：河川水のpH、COD、全窒素、全リン等や大気中二酸化窒素濃度の分析をはじめ、海岸動物の同定等</p> <p>平成24年度の利用数は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習室：件数110件(うちセンター主催講座での利用78件) 延べ1,446人(うちセンター主催講座の受講者623人)
3 環境学習室の利用者への支援	<p>環境学習用のビデオ鑑賞や講話・会議・ワークショップなどに利用できる設備を備え、特に学校や団体の来所者に対して、講義等の学習支援を行った。</p>

	<p>利用内容：各種環境問題等に係るビデオ視聴と当センター職員の講話等平成24年度の利用数は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習室：件数 48件（うちセンター主催講座での利用 21件） 延べ1,027人（うちセンター主催講座の受講者606人）
4 環境学習情報の提供	<p>環境学習のためのホームページ「地球環境学習ひろば」では、環境学習に関する情報を発信している。</p> <p>URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/learning/toppage.html （平成24年度アクセス数 927,437件）</p>
5 環境学習用機器類の貸出	<p>環境保全活動の普及を目的として、環境学習用のビデオ・DVD、測定機器、観察機器等の貸し出しを行った。</p>
6 市町村等の環境学習業務の支援	<p>県市町村関係機関の要請に応じて、環境関連イベントや環境学習業務への支援・協力を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度市町村環境学習担当者研修 H24/5/16・17開催 参加者25名

（3） 普及啓発、広報業務

試験研究成果の普及啓発として、**ア**のとおり業績発表会や環境・公害合同発表会を開催するとともに、業務報告・センターニュース発行及びホームページによる情報提供を行ったほか、**イ**のとおり記者発表や施設公開等を行いました。

ア 試験研究・調査成果の普及、啓発

事業名	概要
<p>1 第21回環境科学センター業績発表会 開催日：H24/8/29 場 所：神奈川県立国際言語文化アカデミア 参加者：54人</p>	<p>当センターで実施している研究成果等業績の県民への普及及び企業での有効活用を図ることを目的に発表会を開催した。</p> <p>発表者及び発表テーマは、5. 1. 1のとおり。</p>
<p>2 第36回環境・公害研究合同発表会 開催日：H24/6/8 場所：横浜市技能文化会館 参加者：106人</p>	<p>当センター、横浜市環境科学研究所及び川崎市公害研究所の3機関で「神奈川県市環境・公害研究機関協議会」を設置し、情報交換等を行った。その一環として環境月間中に合同研究発表会を開催した。</p> <p>発表者及び発表テーマは、5. 1. 1のとおり。</p> <p>（注1）平成25年2月1日付けで、川崎市環境総合研究所が発足したことから、同日より同研究所が川崎市公害研究所に替わり上記協議会の1機関となった。</p> <p>（注2）平成25年2月1日付けで、上記協議会の名称が「神奈川県市環境研究機関協議会」に変更された。</p>
<p>3 環境科学センター業務報告の発行</p>	<p>環境科学センター業務報告として、次のとおり年報と研究報告を発行、全国の関係機関等に配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年版(2012)神奈川県環境科学センター年報第44号

	平成23年度の事業概要等を取りまとめた。 ・平成24年版(2012)神奈川県環境科学センター研究報告第35号 平成23年度の研究等を取りまとめた。
4 環境科学センターニュースの発行	環境科学センターニュースを1回発行、県民及び県内外の関連機関等に配布した。 通巻39号(8月)
5 環境科学センターホームページによる情報の提供	平成19年7月にバリアフリー等に対応したデザインにホームページをリニューアルし、上記刊行物に加え、当センターの調査研究課題とその概要、主な研究成果とその活用例、記者発表資料等を公開した。 環境科学センター(トップページ) URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/center/contents.html ・平成24年度アクセス数：1,810,703件 (平成23年度アクセス数：1,882,625件)

イ 広報（記者発表・施設公開等）

事業名	概要
1 記者発表・情報提供	<p>平成24年度は、7件の記者発表を行った。その内訳は、行事案内5件（講座3件、発表会2件）、事業関連1件（施設公開）、県民調査員募集（ボランティア）1件であり、その概要は次の通りである。</p> <p>【平成24年4月13日】</p> <p>○環境調査手法を習得し地域環境保全に挑戦を！～環境活動実践講座「環境調査コース」のご案内～</p> <p>【平成24年5月16日】</p> <p>○第36回環境・公害研究合同発表会を開催します ～身近な環境問題や環境技術をテーマに研究成果を発表～</p> <p>【平成24年7月18日】</p> <p>○第21回環境科学センター業績発表会を開催します ～県内の大気、水質など最新の環境情報がわかります～</p> <p>【平成24年8月6日】</p> <p>○あなたも環境学習指導者になりませんか！ 平成24年度環境学習リーダー養成講座のご案内</p> <p>【平成24年11月9日】</p> <p>○環境活動実践講座＜地域生態系保全コース＞ ～身近な自然の生き物の生態系と保全手法を学びます～</p> <p>【平成25年3月15日】</p> <p>○科学技術週間に環境科学センターを一般公開！ ～化学物質の分析機器や環境監視システムなどをご覧になれます～</p> <p>【平成25年3月25日】</p> <p>○水源河川県民調査員（ボランティア）を募集します</p>
2 施設公開・イベント	当センターの活動内容を知っていただくとともに、県民の環境問題への関心を広げ、科学技術に関する理解を深めるため科学技術週間中に

	<p>施設公開を実施した。また、県青少年科学体験活動推進協議会の構成員として、「子ども科学探検隊」を1日受け入れた。</p> <p>①施設一般公開：H24/4/16～20の5日間 参加者51人 ②子ども科学探検隊の受け入れ：H24/7/14 参加者25人</p>
3 ポスター展示等	<p>当センターの一階ロビー展示コーナーで、パネルを掲出して当センターの調査研究事業の紹介をするとともに、大気環境監視システム図や過去の大気汚染写真を掲出して地域環境に対する意識啓発を行った。</p> <p>また、県政策局科学技術政策課主催の「かながわ科学技術フェア」に展示ブースを出展した。</p> <p>① かながわ科学技術フェア(新都市プラザ(横浜駅東口)) 開催日：H24/11/10 研究成果等のポスター・資料の展示</p> <p>②エコ・フェスタかわさき2013 (川崎市総合自治会館(武蔵小杉駅)) 主催：エコ・フェスタかわさき2013実行委員会・川崎市環境調整課 開催日：H25/2/24 ポスター2種(環科C紹介・環境学習案内)・資料の展示</p>

3. 1. 2 環境監視情報課

環境監視業務については、(1)のとおり県内96か所に設置されている大気汚染常時監視測定局(注)を専用回線で結び、大気汚染状況を常時監視するとともに、光化学スモッグ注意報の発令などの緊急時措置を行いました。また、ダイオキシン類、トルエン等の大気汚染調査、公共用水域水質調査及び地下水水質調査の委託を行い、結果の精度管理を実施しました。

さらに、(2)のとおり浮遊粒子状物質等の大気汚染物質の調査業務を行うとともに、騒音及び振動の低減化等の調査業務及び自動車騒音の面的評価を行いました。

環境情報業務については、(3)のとおり化学物質に関する情報の収集とインターネット等による事業所、県民等への情報の提供、並びに県環境農政局の環境情報処理システム等の運用管理等を行いました。

(注) 大気汚染常時監視測定局

県内の大気環境を常時監視するため、次のとおり96か所の測定局を設置している。

- ・一般環境大気測定局61(うち大気汚染防止法の政令6市設置46)
- ・自動車排出ガス測定局31(うち政令市設置22)
- ・移動測定局1、立体気象観測局2、研究用測定局1

(1) 環境監視業務

事業名	概要
1 大気常時監視測定局の維持運営	<p>①常時監視測定局の測定機器の保守管理 一般環境大気測定局15か所、自動車排出ガス測定局9か所、移動測定局1か所、立体気象観測局2か所、研究用測定局1か所計28か所の測定機器</p> <p>②測定機器の新設 微小粒子状物質自動測定機4台</p>
2 環境監視システムの運営事業	<p>①常時監視用コンピュータシステムの維持運営</p> <p>②大気汚染緊急時の措置</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・24年度中の光化学スモッグ注意報発令回数は、5回（6月1回、7月3回、8月1回）であり、被害の届出者はいなかった。 <p>③大気汚染常時監視測定結果の解析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平成23年度神奈川の大気汚染」を発行した。
3 ダイオキシシン調査事業	<p>①大気調査：15地点の調査委託を行い結果の精度管理を行った。</p> <p>②水域調査：河川20地点及び湖沼1地点の水質及び底質の調査委託を行い結果の精度管理を行った。</p> <p>③土壌・地下水調査：土壌4地点、地下水4地点で調査委託を行い結果の精度管理を行った。</p> <p>④大気汚染状況確認調査：過去の調査で環境基準値を超えた地点等における汚染状況の調査委託を行い結果の精度管理を行った。（水質3地点、底質2地点）</p>
4 有害大気汚染物質モニタリング調査	大気環境調査：トルエンなど26物質について、8地点で調査委託を行い結果の精度管理を行った。
5 公共用水域水質測定調査	<p>19水域50地点を5地域に分割して水質測定委託を行い、結果の精度管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川（流入河川を含む。）は14水域21地点を2地域に分割して委託 ・湖沼は2水域12地点を委託 ・海域は3水域17地点を2地域に分割して委託
6 地下水質測定調査	<p>131地点の水質測定委託を行い結果の精度管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メッシュ調査60地点 ・定点調査37地点 ・継続監視調査34地点

(2) 行政関連調査（結果については、4. 2. 2 行政関連調査に記載）

① 騒音振動調査業務

調査項目	調査数	概要
1 騒音振動に係る法律、条例及び苦情等に基づく調査指導	7地点	地域県政総合センター及び市町村からの依頼に基づき、騒音振動に係る7地点の調査を実施し、問題解決のためデータ提供と技術的支援を行った。
2 航空機騒音測定調査（大気水質課）	34地点	厚木海軍飛行場に飛来する航空機の騒音に係る環境基準達成状況を把握するため、基地周辺34地点の騒音を調査・解析した。
計	41地点	

② 自動車騒音面的評価業務

事業名	概要
1 自動車騒音面的評価業務	騒音規制法第18条に基づき、沿道建物調査、自動車騒音等の調査を行うとともに、平成19年度に構築した自動車騒音面的評価システムを使用して、県内の道路延長79.0kmの区間について道路に面する地域の環境基準達成状況を調査した。

(3) 環境情報業務

事業名	概要
1 環境情報処理システム維持運営事業	環境情報処理システム（県庁・地域県政総合センター間で稼働している工場・事業場情報管理システム、水質管理システム、産業廃棄物情報管理システム、及び自動車リサイクル情報管理システムの4つのサブシステムで構成）の運用管理を行った。
2 化学物質安全情報提供システム整備事業	化学物質による環境汚染を未然防止するため、化学物質使用事業所の自主管理体制を支援する目的で構築した「化学物質安全情報提供システム」（KIS-NET）の維持管理を行った。 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/kisnet/ （平成24年度インターネットアクセス数 963,843件）
3 情報提供業務	インターネットによる情報提供 ①環境農政局の各課所等のホームページにリンクしている「かながわの環境」による情報提供に参加した。 URL http://eco.pref.kanagawa.jp/ （平成24年度アクセス数 11,640,333件） ②PRTRデータに平成23年度集計結果（平成22年度分データ）を追加した。 「かながわPRTR情報室」 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/prtr/ （平成24年度アクセス数 29,865件） ③大気汚染常時監視データ等を提供した。 「大気汚染常時監視測定」 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/taiki/index.htm （平成24年度アクセス数 4,944,131件） 「光化学注意報発令状況」 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/haturei/ （平成24年度アクセス数 242,677件） 「光化学情報携帯サイト」 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/i/ （平成24年度アクセス数 1,965,996件） 「光化学スモッグ情報メール」「大気濃度1時間値メール」「二酸化窒素情報メール」 メーリングリスト登録者にメールで情報提供した。
4 研究業務支援システム維持運営事業	所内の研究業務支援システムの維持管理を行った。

3. 2 調査研究部

平成 20 年 4 月 1 日に旧環境保全部と環境技術部を統合のうへ「調査研究部」としました。さらに、平成 22 年 4 月から①地域環境担当、②水源環境担当の 2 つの担当に集約し、大気・水域のダイオキシン類及び PRTR 対象物質などの化学物質調査、法・条例に基づく廃棄物及び事業所排水の行政検査と水質事故時の調査に加えて、微小粒子状物質 (PM2.5) などの大気環境調査を行っています。

平成 24 年度の主な業務は、行政関連としては、化学物質環境調査、ダイオキシン類分析調査、丹沢大山自然環境保全対策調査、産業廃棄物及び一般廃棄物関連の焼却灰・最終処分場放流水等の検査、事業所排水・地下水等の水質検査を行いました。また、民間委託されているダイオキシン類、有害大気汚染物質、公共用水域及び地下水のモニタリング調査について、分析値の精度管理などを実施しました。

研究業務としては、プロジェクト研究及び地域課題研究に部を横断して取り組むとともに、国立環境研究所との共同研究に取り組みました。

3. 2. 1 行政関連調査 (結果については、4. 2. 2 行政関連調査に記載)

調査項目	調査数	物質数等	項目数	概要
1 化学物質環境調査 (大気水質課)				
(1) 化学物質大気環境調査	3地点 ×3回	3物質	27	PRTR制度により届出のあった物質のうち、特に大気排出量の多いキシレン (o-, m-及びp-) 及びエチルベンゼンの大気中濃度のモニタリング調査を実施した。
(2) 化学物質濃度調査(水域) ・水質 ・底質 ・生物	(地点 ×回) 11× 2 3× 1 2× 1	14物質 8物質 7物質	308 24 14	以下の水質・底質・生物調査を実施した。 水質についてPRTR排出データ、安全性影響度評価指針の毒性ランク、内分泌攪乱作用についての研究成果を考慮して選定した計14物質群を11河川で年2回、底質について8物質を3河川で年1回、生物についてコイを対象として7物質を2河川で年1回
(3) ダイオキシン類分析調査	(3件)	10検体	10	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく立入検査として3事業所10検体を分析した。
2 化学物質環境汚染実態調査 (環境省)				
(1) 初期・詳細環境調査(大気)	1地点 ×3日× 2	4物質	24	ベンズアルデヒド、カテコール等を測定するため3日間連続で大気試料を採取し、分析した。
(2) 化学物質分析法開発調査	1件	1物質		大気中ヘキサメチレンジイソシアネート(ポリウレタン原料の一種)の大気中濃度測定法を開発した。
(3) モニタリング調査	1地点 ×6回		(28)	残留性有機汚染物質 (POPs) 等の分析のために大気試料を採取した。

調 査 項 目	調査数	物質数 等	項目数	概 要
3 PM2.5対策共同 調査 (縣市共同調査)	5地点× 48時間 分	240検体	240	県二市によるPM2.5実態把握調査 (神奈川県公害防止推進協議会浮遊粒子状物質対策 検討部会) : 1県2市 主にこれまでの調査で得られた結果について、解 析を行った。 硫酸イオンの分布調査を実施した。
4 浮遊粒子状物質 広域共同調査 (関東地方)				浮遊粒子状物質合同調査 (関東地方環境対策推進本部大気環境部会浮遊粒子 状物質調査会議) : 1都9県7市 H23年度の解析を行った。
5 縣市酸性雨共同 調査	1地点	65検体	746	縣市酸性雨共同調査 : 1県3市 東アジア方式による酸性雨調査を県内1地点にお いて実施した。当センターでは、原則として1週間に 2回降水を採取し、降水量、酸性度 (pH)、電気伝導 率 (EC) 及びイオン成分濃度を測定した。
6 丹沢大山自然環 境保全対策事業 調査 (自然環境 保全センター)	4地点	4検体	16	平成16年から実施している檜洞丸測定点における オゾンの連続測定の他に、自然環境保全センターと 共同で丹沢山、大野山、堂平の3測定点を追加し、合 計4測定点で山間地のオゾンの連続測定を実施した。
7 有害大気汚染物 質モニタリング調 査に係る精度管 理調査	12ヶ月分		40	有害大気汚染物質 (19物質) による汚染状況を把 握するために、大気中濃度の測定調査を委託してい る分析機関が出した結果に対する精度管理を実施し た。
8 ダイオキシン類 常時監視等に係 る精度管理調査	45地点	45検体	102	ダイオキシン類の汚染状況を把握するため常時監 視等の測定調査を委託している分析機関が出した結 果に対する精度管理を実施した。
9 産業廃棄物等の 行政検査	14施設	32検体	539	処理施設のばいじん、焼却灰、中間処理物、埋立 地浸出水、放流水等の検査を実施した。
10 一般廃棄物等の 行政検査	26施設	50	1,189	処理施設のばいじん、焼却灰、埋立地浸出水、放 流水等の検査を実施した。
11 法律、条例に基 づく工場等立入 検査 (水質)	73工場	85	556	水質汚濁防止法及び県生活環境の保全等に関する 条例に基づき、対象工場の特定施設等の使用状況、 排水基準適合状況等を確認するための立入調査及び 排水の分析を行った。
12 苦情等に係る 水質調査	11か所	49	228	地域県政総合センターが実施した苦情調査等に伴 う工場排水、地下水、河川等の水質・土壌等の調査 を実施した。

調査項目	調査数	物質数等	項目数	概要
13 事故等に係る水質等の調査	5件	11	102	魚死亡や白濁水等の水質事故の原因究明のため分析調査を実施した。
14 公共用水域の常時監視等に係る精度管理調査	50地点	828検体	11,099	公共用水域の水質測定計画に基づく水質調査の分析結果について、分析野帳等を確認する精度管理を行った。
15 地下水の常時監視等に係る精度管理調査	143地点	143検体	3,724	地下水の水質測定計画に基づく水質調査の分析結果について、分析野帳等を確認する精度管理を行った。
16 分析機関の精度管理に関する調査	2事業(21事業所)	2物質	21	公共用水域及び地下水の水質調査を委託している分析機関に対して、模擬試料を用いた精度管理調査を実施した。
17 地下水汚染浄化対策事業	6地点	12検体	56	地下水汚染源の工場、事業場について、周辺の地下水の水質調査を実施することにより改善効果の確認を行った。
18 アスベスト環境調査(解体工事等)	11施設	52検体	104	建築物解体工事等における環境調査を実施した。
19 アスベスト環境調査(一般環境)	21件(7カ所)	42検体	42	常時監視測定局における環境調査を実施した。
20 アスベスト確認分析	54件	54検体	54	建築物解体工事等における事業者調査が適切であるか確認するための分析を実施した。
21 大気常時監視に係る成分分析	2地点×56日	112検体	5,152	大気汚染防止法の常時監視項目(微小粒子状物質)に係る成分分析を実施した。

3. 2. 2 調査研究業務

プロジェクト研究として「環境中の化学物質の汚染実態解明と環境リスク評価」2課題、「水源環境の保全に関する研究」3課題及び「地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究」1課題の計6課題のほか、地域課題研究1課題及び共同研究3課題を実施しました。

(内容については、4 試験研究・調査の概要の4. 1に課題を、4. 2及び研究報告に結果概要等を掲載。)